



# どがわんち 大田市でみる

大田市ふるぎど情報誌

# VOL.22

2012.10

# 神々の国しまね 就農体験ツアー

8月4日～6日にかけて、島根県の主催により『神々の国しまね就農体験ツアー』が開催されました。

毎年、関東、関西、中京などで全国新規就農相談センターが開催している新・農業人フェアにて「島根での就農体験」の募集を行い、関東や関西から総勢22名の参加がありました。このうち6名（関東3名、関西3名）が、大田市での就農体験を希望され、受け入れを行いました。

## 就農の情報収集

8月4日、昼過ぎに大田市波根町の県立農林大学校に到着。

長時間のバスの疲れも見せず、早速、参加者は希望する農業についての情報を収集。県内各市町村の担当者が待つブースを訪れていました。

事前にインターネットなどで得た情報をもとに、これまでの新規就農状況や農業に対する支援対策など、熱心に担当者から話を聞いていました。

このツアーの目玉企画で



▲大田市ブースでの説明風景

もあつた就農希望者や市町村担当者などの意見交換の懇親会では、農業談義に花が咲いていました。

ちょうどこの日は久手町の花火大会。農林大学校からも少しだけ花火の音と光を楽しむことができました。

## 大田市での就農体験

8月5日、それぞれ希望の市町村に分かれ、就農体験が始まりました。

大田市での就農体験は、メロンと西条柿の生産者で構成されている『温泉津町特産物促進協議会』を中心に行われました。この協議会は、担い手不足による栽培面積の減少に悩んでおり、新規の担い手の確保に繋がればと受け入れを行っていただきました。

## まず講習会

まずは地域の状況や気象条件、農産物について市農林水産課中村課長補佐が説明し、この地域への知識を深めていただきました。

続いて、温泉津町特産のメロン栽培技術に

ついて、島根県西部農林振興センター県央事務所農業普及部大田支所<sup>（大田）</sup>主任農業普及員より説明があり、参加者は興味深く聞き入っていました。

参加者は全員が農業の初心者。基本的な農機具である刈払機の取り扱い方法について、石見銀山農業協同組合農業機械課竹内職員から指導していただきました。

美味しい地元食材を使った昼食の後は、地元農業者との意見交換会です。就農体験参加者は、「農業の収入はどれほどになるのか」「移住した場合の住居はどうすれば良いか」など率



▲初めての刈払機体験中！

直に質問していました。また、メロン栽培の秘訣や、苦労話など熱心に尋ねていました。Uターン経験のある生産者もおられ、自分の体験を交えながら答えておられました。

## いざ現地体験

次は現地での体験です。温泉津町湯里地区の柿畑の草刈り体験にチャレンジ。

初めての刈払機体験はおっかなびっくり。猛暑の中、汗まみれになりながら機械を操作していました。

この日の締めくくりは、地元農業関係団体との歓迎会。参加者は膝を突き合わせて地元生産者と交流し、とても盛り上がりました。

ちょうどこの日も、ゆのつ温泉夏祭り。グルメ横丁と題した出店がたくさんあり、この地域の味力(魅力)



▲熱い想いのぎっしり詰まった歓迎会

を堪能していました。また、目の前で打ち上がる花火にも見入っていました。

## 体験最終日

最終日は、温泉津町井田地区のメロンハウスで栽培についての農業体験。初めに、この地区にある集出荷施設で、メロンの出荷作業を見学しました。

機械で自動的に行われる選別作業に参加者は、びっ

くりしていました。

次に、メロンの育苗ハウスで、抑制栽培(秋にメロンを収穫する栽培方法)について地元生産者より説明を受けました。参加者は、暑さが増すハウスの中で栽培のポイントについて真剣に聞き取りをしていました。

同じハウスではトマトも栽培されており、採りたての美味しいトマト

◀とっても暑いハウスの中でも就農希望者は真剣そのもの



を試食させていただきました。

その後は近くの放牧場も見学。ここでは、まず和牛の大きさにびっくりし、ゆつたりとした自然の中で放牧されている環境を見てまたびっくり。また、ハウスの近くに積み上げてある堆肥が「宝の山」との地元生産者の言葉にまたまたびっくり。大田の農業を肌で感じる体験ができたようです。

なお、この地域は県内多数の和牛の産地でもあります。今年10月開催の「第10回全国和牛能力共進会(和



牛のオリンピック)に出場しました。

現在、このツアーに参加された2名が9月から産業界に取り組み、メロン農家を目指し、研修を行っています。

温泉津町特産物促進協議会は、体験から研修、就業までの一貫した体制づくりに取り組んでいます。

今後このような取り組みに積極的に参加しながら、担い手不足の問題解決を目指しています。

## 【参加者の感想】

- ・メロンのトコ箱栽培(少量土壌培地耕)のシステムを見て、ハウス内がすごきれいで驚いた。
- ・ハウス内はサウナのようでも暑かった。
- ・農家の人の苦労や大変さがわかった。
- ・トコ箱栽培でメロンを作ってみたいと思った。

## お手伝いします！

大田市農業担い手支援センターでは、農業体験者、新規就農者の相談といろいろな支援を行っています。

大田市で農業をやりたい！とお考えの方は、ぜひ、大田市農業担い手支援センター(☎0854-821600)までご連絡ください。

あなたが希望している農業が見つかるかもしれません。

## 大田市富山町で暮らして

以前に本誌（「どがなかな大田市です!!第12号」）で取り上げた大田市へ「ターン」された山田良子<sup>（よしの）</sup>さん。大田市へ移住されてから4年を過ぎた今、「富山町」での暮らしについて尋ねてみました。

私と娘と息子、3人で大田市に越して来たのは、今から4年前です。愛知県の濃尾平野で暮らしていた私たち家族にとっては、起伏に富んだ地形も、曲がりくねった山道も、何もかもが



初めてのことはかりでした。

「緑がたくさんあって、のどかで、住む人々はみんな仲良く温かで……」「反面、不便で地域のつきあいが多く、干渉も多い。」都会の人が想像する山村の姿。大

田で生活してそうしたイメージは、良くも悪くも山村の姿のごく一部でしかないと感じています。

都会の人の目に映る豊かな自然は、そこで生活する人々の日々の努力によって、その美しい景観を維持しているということ。のどかと思われている生活の中には、厳しい自然と向き合っている現実があるということ。あたりまえだけれど、いろいろな人が暮らしている中では、諍い<sup>（いさか）</sup>もあるということ。でも、家と家との距離と反比例して、人と人との心の距離は、とても近いということ。不便さを補ってあまりある魅力に溢れているということ。この4年間で、いろいろなことに気づきました。

人口14万人の都市から越してきた子どもたち。

小さな虫にも大騒ぎしていた4年前の夏から、随分と大きく成長しました。4年間、私が育てたのではな

大田市富山町



く、ぐんぐんと自分たちの力で育ってくれた、たくさんの人たちに支えられて大きくなった、そう感じてい

ます。

そして、人だけでなく、豊かな自然も子どもたちを育ててくれました。

私たち家族が暮らす富山町は、棚田の美しい山間の町です。四季それぞれに美しい景色があり、子どもだけでなく私も、その中からたくさんのお話を学びました。

春、自分たちの手で摘み取ったフキノトウを天ぷらにして、命に囲まれて生活していることを感じました。夏、冷たい川で思い切



り遊び、豊かな自然に感謝しました。秋、稲刈りで忙しい町民のみなさんの姿を見て、おいしいお米をいただけることを心から有り難く感じました。冬、雪に覆われた毎日の中、暖かく暮らす知恵を学びました。

どこに住んでも、きっとプラス面もマイナス面もあるのだと思います。でも心

の持ち方次第で、プラスがどんどん増えていく、そう思います。私は、厳しい自然の中の温かな町、富山町が大好きです。

これからも、私たち家族を優しく迎えてくれた富山町と、お世話になっっている周りの人たちに感謝しながら、毎日を過ごしていきたいと思っています。子どもたちにとって大田市富山町が、「大好きなふるさと」になるために…。

(筆 山田 良子)



山田さんと子どもたち

## 山田さんの暮らす富山町

大田市の北東に位置する253世帯、643人、高齢化率45.88%の山間の町(9月1日現在)。

要害山(299m)の山麓に美しい棚田風景が広がる

いいことばかりではない田舎の暮らし。厳しい自然や便利ではないことも全部受け入れ、ここで暮らす山田さん。だからこそ、地域住民に優しく受け入れられ、田舎での暮らしを楽しんでいるのではないだろうか。

### 大田市への

定住に関するご相談は

おおだ定住支援センター

(大田市役所まちづくり

推進課内)

☎0854-82-1600

で承っております。

# さん



## 三瓶山のまめ知識！

三瓶山は、低地を囲むように<sup>あさんべ</sup>男三瓶、<sup>めさんべ</sup>女三瓶、<sup>こさんべ</sup>子三瓶、<sup>まこさんべ</sup>孫三瓶、<sup>たいへい</sup>太平山、<sup>ひかげやま</sup>日影山など6つの峰が環状に連なる山。

昭和38年4月10日に大山隠岐国立公園に指定。そして、来年三瓶山は、国立公園として50年目を迎えます。



北の原から見た男三瓶山

春はオキナグサ、夏はユウスゲ、秋はマツムシソウが咲く北の草原。



姫逃池のカキツバタ 三瓶自然館

姫逃池に群生するカキツバタ。6月上旬には見ごろを迎え、カキツバタ祭のイベントも開催される。

## 【オススメ！登山ルート】

**A** <sup>ひめのがいけ</sup> 姫逃池コースは、男三瓶山への最短ルート。

山道はよく整備され、険しい箇所もなく、ゆっくり登っても2時間で山頂へ到着。登山道は、三瓶自然館の後ろにあり同館の駐車場を利用できる。

その他の登山コースは↓↓↓

- B** 名号コース～三瓶自然林を進むルート
- C** 東の原コース～リフトの利用が可能なルート
- D** 女夫松コース～三瓶温泉に近いルート
- E** 西の原コース～草原から登るルート

※各峰を縦走し、一周することができます。



東の原から見た女三瓶山

観光リフトは4月～11月運行。リフトを使って大平山まで登ると、らとちゃんもオススメの絶景が見られる。観光リフト 8:30～16:30 定休日：毎週火曜日 ☎0854-83-2020 (三瓶観光株式会社)



浮布池から見た三瓶山

手前が浮布池。平成23年に「浮布池広場」ができ全景を見ることができ。まさに絶景ポイント!!



大平山からみた秋の三瓶山

写真左手奥が男三瓶山、手前の稜線は女三瓶山。



西の原から見た三瓶山

広い草原の向こうに男三瓶山(左)、子三瓶山(右)がそびえる。



西の原にある樹齢400年の『定め松』

平成20年7月に植樹された『二世松』とともに三瓶山を見守っています。



西の原で見られる放牧牛の風景

牛の放牧は江戸時代から続く三瓶山の風物詩。

# 大山隠岐 国立公園

# 三さん瓶べ山

## 施設紹介 facilities for recreation



### 三瓶自然館サヒメル

自然を楽しく紹介する様々な展示とプラネタリウム、天文台を備えた博物館。大人400円、小中高生200円（H25年3月まで高校生以下無料）※企画展開催時は別料金  
定休日：火曜日、年末年始ほか  
☎0854-86-0500



### 三瓶山ドッグラン

北の原キャンプ場に併設の本格的なドッグラン。愛犬と宿泊できるバンガローも人気。  
☎0854-86-0152



### 三瓶山北の原キャンプ場

木立に囲まれた高原のキャンプ場。ケビン、オートキャンプ場など設備も充実。  
☎0854-86-0152



### 【鶴の湯（薬師湯）】と【亀の湯】

三瓶温泉街にある公衆浴場。三瓶登山や散策、キャンプの後にはゆっくり疲れを癒やしてみても。また、鶴の湯の入口には、「手湯」があり、ぬるめの温度は、丁度良くて気持ちがいい。



### 三瓶小豆原埋没林公園

4000年の時を超えて、地下から出現した太古の森。巨木が目前に並ぶ姿は圧倒的迫力。大人300円、小中高生100円（H25年3月まで高校生以下無料）  
定休日：年末年始 ☎0854-86-9500



### 渓流魚専門 つりぼり やましろ屋

三瓶山の湧水を利用し、ヤマメとイwanaを養殖。必要なものはレンタルでき、気軽に釣りが楽しめる。また、釣った魚を炭火で焼いて食べることも。魚のつかみ取りも可。（つかみ取りは要予約）4月～11月までの土、日、祭日営業  
☎090-7597-8607

## 食べ物紹介 food



### さんべのお米

三瓶での稲刈り風景。お米の旬「新米」は、今年いっぱい食べ頃。写真は、「ファーム浮布」の田んぼ。おおだブランドにも認証されている。  
☎0854-83-2588  
（ファーム浮布株式会社）



### 三瓶バーガー

地産地消にこだわったご当地バーガー。パンズにまでこだわった形は、三瓶山!! そのもの。おおだブランドになっており、新作のハンバーグも絶品!!  
☎0854-86-0200（三瓶バーガー）



### さんべのそば畑

三瓶山周辺の高原地帯で栽培されている。そばの実をできるだけ剥ぎ、芯の部分だけを多く使用するため色が薄いのが特徴。三瓶山周辺のそば屋さんでは、手打ちで味わうことができるお店もある。



### 三瓶のわさび畑 かじか農園

栽培方法は、「畳方式（田んぼ式）」で、無農薬。農園全体で3万本のわさびが植えてある。12月～2月のどっさり雪が積もる頃に植え付けられ、およそ1年～1年半で出荷。3年のローテーションで年間8千～1万本ほど出荷されている。  
☎0854-82-3581（かじか農園）



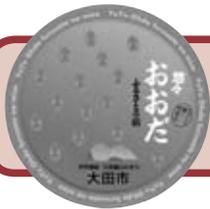
### さひめの泉

硬度19度の軟水で、口当りの柔らかいナチュラルウォーター。おおだブランドにも認証されている。  
☎0120-837-014  
（山陰クボタ水道用材株式会社）



石見銀山5周年キャンペーンもまだまだやってるよ!! 「ゆるキャラグランプリ2012」にエントリー♪ (P.C、スマートフォン、携帯電話から投票できます) 応援してネ!





悠々おおだ ふるさとの店  
～新たに3店を表彰～

# キラリと輝く推奨店

町を歩き、ふと顔を上げたとき、昔見た光景と変わらぬ姿のまま、誰かを待つように佇むお店が目飛び込む。

思い出の中の味、思い出の中の場所が、この大田では今も誰かを待っています。

そんな地域に根ざし、愛される老舗名店を大田市は「悠々おおだふるさとの店 キラリと輝く推奨店」として、新たに3店舗表彰しました。

今回の表彰は「和香」「大浜製菓」「旅館ますや」、いずれも地元で30年以上商売を営む有名店ばかりです。

今度大田へ帰るときは、懐かしい思い出を求めて、お店を訪ねてみてはいかがでしょうか？

## 【問い合わせ】

大田市役所産業企画課 ☎0854-82-1600(内線231)

## 和香

代表：奥井キミ子 さん

■住所：大田町大田イ2755-12

■☎0854-82-7471

■営業時間：8：00～19：00（不定休）

■昭和56年に創業。お土産として人気の高い「いも代官」のほか、「かなめ石」「判銀もなか」の3つは創業以来作り続けている定番商品。厳選した素材を用い、昔ながらの手作り技法で丁寧に作られている商品の数々は、地元客、観光客問わず愛される

■お薦め商品：☆いも代官：105円／1個

☆判銀もなか：95円／1個



## 大浜製菓

代表：大浜 松夫 さん

■住所：温泉津町温泉津口41-1

■☎0855-65-2049

■営業時間：7：00～19：00（不定休）

■昭和45年に創業。現代表は創業当時より従事しているベテラン。「温泉まんじゅう」などの温泉地らしい商品から、大代町産の味噌を使った「才市まんじゅう」や、「よずくはで」にちなんだ「よずくサブレ」など新商品の製造にも積極的

■お薦め商品：

☆才市まんじゅう：630円（10個入）

☆よずくサブレ：630円（12枚入）



## 《推奨店一覧》

霧の海食堂（三瓶町志学）

トリスバー（大田町）

日高恵比寿堂（三瓶町志学）

若林酒造（温泉津町）

出雲屋蒲鉾店（仁摩町）

有馬光栄堂（大森町）

一宮酒造(有)（大田町）

のがわや旅館（温泉津町）

松村鮮魚店（仁摩町）

さゝ中屋（大田町）

さつだや（大田町）

平野花月堂（温泉津町）

小鐵屋旅館（仁摩町）

## 旅館ますや

代表：益田 康男 さん

■住所：温泉津町温泉津口32

■☎0855-65-2515

■休日：不定休

■古くは廻船問屋を営み、明治43年に旅館として生まれ変わる。温泉津を代表する旅館として愛され、新鮮な天然の地魚を使った自慢の料理、温かいもてなし、創業当時の面影を残す木造3階建ての旅館が醸す情緒が、訪れる旅行客を和ませ、旅の疲れを癒してくれる

■お薦めメニュー ☆1泊2食：10,650円～

☆会席料理：3,675円～



## シリーズ石見銀山② 暗闇を灯す —石見銀山で使われた灯りの道具—

大田市のマスコットキャラクター“らとちゃん”。このモチーフとなっているのは、石見銀山の採掘作業で活躍した照明器具です。栄螺の殻を使っている灯りということで「螺灯」と呼ばれています。今回は、石見銀山の暗闇を灯した道具をご紹介します。

螺灯の存在は、『石見銀山絵巻』という江戸時代の採掘や銀製錬の様子を描いた絵巻物で確認できます。この絵巻物、作者や作画年代は不明ですが、内容から、江戸時代の後半に描かれたといわれているものです。絵巻物の中では、坑道の中を歩く鉱夫の手の中や、岩壁に向かってノミを打つ鉱夫の近くに、炎の灯った栄螺の殻が必ず描かれています。史料には「敷内（坑道）へ行き候者、栄螺がらに胡麻油、綿燈心をいれ火を灯し」とあり、胡麻かエゴマの油を燃料としていたようです。

新潟の佐渡金銀山にも『佐渡金銀山絵巻』という絵巻物が存在します。コピーしたかのように構図は同じですが、この絵巻物で鉱夫が手に持っているのは螺灯ではなく、素焼きの皿に火を灯した照明器具です。鉱山によって、特色のあることがわかります。

時代が経つにつれ、鉱山で使われる照明はカ

ンテラや電球、ヘッドライトへ変わっていきま  
す。技術が進歩しても、坑道という暗闇にはど  
れも小さな灯りのままでした。

現在、限定公開をしている大久保間歩では、  
解説ポイントまで照明は一切ありません。漆黒  
の闇の中を、懐中電灯の灯りだけで進んでい  
きます。

江戸時代の鉱夫たちは、小さな栄螺の殻に灯  
りをともし、同じ坑道の中を歩いていました。  
小さな灯りを手にして、鉱夫たちは暗闇の向  
こうに何を見ていたのでしょうか。



掘る鉱夫



歩く鉱夫

『石見銀山絵巻』（個人蔵）より

【問】石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183  
ホームページ <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

## ちゃんぼし語録⑭

夫：さあて、朝飯も食ったし、田行くこしらえするかのぉ

妻：洗いもんをすめてから、てごしに行くけえ。先行つといてや

夫：お〜い、ちょっと来てみ〜。えらいことになつとるで

妻：朝っぱらからでかい声して、どがしたかな

夫：ちゃんと犬繫いどかんけ、庭をわやにしてしもーとるで

妻：そがなことゆうたてて、夕べちゃんと繫いどつたに〜

夫：あんたちょちょくさだけ、ように繫いどらんかっただないだ

妻：そがなことあらせんわね。猿かなんぞが畑に出て、犬がたまげたないの

夫：あがいえばこがゆうのぉ。まーいいけ、はや来て見なはい。あんたが大事にしとる植木鉢がめげとるで

妻：なんたことだかいな。田行く前に、ひと仕事せんといけんようになったがあ

【対訳】

夫：さあ、朝ごはんも食べたので田んぼに行く準備をしようかな

妻：洗いものを済ませてから、手伝いに行きます。先に行ってください

夫：お〜い、ちょっと来てごらんよ。すごいことになっているよ

妻：朝から大きな声を出して、どうしたの

夫：きちんと犬を繫いでいなかったから、庭をめちゃめちゃにしてしまっているよ

妻：そんなこと言ったって、夕べきちんと繫いだのよ

夫：君はあわてものだから、きちんと繫いでいなかったんじゃないかな

妻：そんなことはないはずだわ。猿か何か畑に出て、犬が驚いたんじゃないかしら

夫：ああ言えばこう言うね。まあいいから、早く来て見てごらんよ。君が大事にしている植木鉢が壊れているよ

妻：なんてことでしょう。田んぼに行く前に、ひと仕事しないといけないようになってしまったわ

### 物部神社節分祭

日時 2月2日(土) 12時～ 厄除火焚神事、  
3日(日) 0時～ 節分祭、  
正午より福引きや豆撒き・福撒き。無病息災、  
家内安全を祈って、年男が豆をまきます。

場所 物部神社 (川合町)

【問】 物部神社

☎0854-82-0644



### 御日待祭り

夜通し火をたき、「寝たら起こせ王子や王子、五朗の王子」と叫びながら町を練り歩きます。神社では拝殿に上がり、「王子や王子、ゴーロさんの王子」と叫びながら座板が割れるまで跳びはねます。

日時 2月14日(木) 20時頃～

場所 巖島神社(温泉津町小浜)

【問】 大田市役所温泉津支所

☎0855-65-3111



### さんべ志学の雪あかり

心あたたまるやさしい光が湯のまち志学をつつみます。

小さなかわいい“かまくら”にキャンドルの明かりが灯る「雪あかり」。きらめく無数の灯火があなたを幻想の世界にいざないます。

日時 2月中旬 17時頃～

場所 三瓶温泉街周辺

【問】 さんべ志学の雪あかり実行委員会

(事務局：志学まちづくりセンター ☎0854-83-2167)

当日、ミニかまくらづくりを手伝っていただけるボランティアを募集します。詳細は、実行委員会までお問い合わせください。



## "おおだ"暮らしへの はじめの一歩！

### おためし田舎暮らし ～田舎体験施設利用者促進事業～

大田市への移住を希望されている方 “おためし居住”してみませんか？

豊かな自然や文化、海や山の恵まれた食、そして温かい人々…そんな大田の魅力を体験してもらいたい。あなただけの”おおだ暮らし”体験をお手伝いします。



移住希望者が「しまね田舎ツーリズムの宿」に登録された大田市内の田舎体験施設を利用した場合に利用料金の1/2を助成します

**補助金の限度：ひとり一日当たり3,000円**

**同一年度7日以内**

※施設のご利用前に大田市への申請が必要です。  
※補助金は、大田市より田舎体験施設運営者へ直接支払いますので、利用者の方の利用料負担額が軽減されます。

「しまね田舎ツーリズムの宿」は大田市内に8施設あります。詳しくはお問い合わせください。

【問い合わせ】 大田市役所まちづくり推進課 ☎0854-82-1600 (内線211)

# おおだ情報BOX

## 神々の国しまね 仁摩ふるさと講座 特別講演会 人麻呂さんの見た、仁摩の郷

日時 第1回 平成24年12月9日(日)  
第2回 1月20日(日)  
いずれの回も13時20分～15時30分

場所 仁万まちづくりセンター

テーマ

### ・第1回 「古代の仁摩の道と役所を求めて」

古代の道「山陰道」はどこを通っていたのか。また役所はどこにあったのか一緒に探ってみましょう！

### ・第2回 「人麻呂の魂を求めて」

山陰の海岸を舞台に多くの歌を歌い歩いた柿本人麻呂。彼の終焉の地は果たしてどこだったのか。また仁摩との関わりがあったのか。この機会に一緒に学習してみましょう！

講師 関 和彦氏(島根県古代文化センター客員研究員)

【問】 仁摩公民館

☎ 0854-88-3081

## 時の祭典

年末から年始にかけて、1年計砂時計を回転させる恒例イベント。年明けとともに1,000発の花火も打ちあがります。

期日 12月31日(月)～1月1日(火)

場所 仁摩サンドミュージアム

【問】 仁摩サンドミュージアム

☎0854-88-3776



## 新春・宅野子ども神楽と発表会

◆約250年余の伝統を受け継ぐ宅野子ども神楽。踊り手からお囃子まで、すべて子どもだけで行われる珍しい神楽です。

日時

○新春神楽 1月1日(火)、2日(水)、3日(木) 19時30分頃～

※午前中は獅子舞を舞って各戸を巡回します。

○発表会 2月11日(月)

9時30分～12時頃まで

場所 仁摩伝統芸能伝承館

【問】 大田市役所仁摩支所

☎0854-88-2111



## 新春神楽(温泉津)

石見神楽温泉津舞子連中と京都瓜生山舞子連中の共演による華麗な新春の舞いをお楽しみください。

日時 1月3日(木) 17時～22時

場所 温泉津まちづくりセンター

【問】 小林工房

☎0855-65-2565

## 大田市成人式

アトラクションも有ります。

日時 1月4日(金) 10時～

場所 サンレディー大田

【問】 大田市役所生涯学習課

☎ 0854-82-1600

## 五十猛のグロ

20メートルほどの竹の柱を中心とする大型で独特の仮屋をつくり一年の豊漁や無病息災を祈願する「とんど」行事です。国指定重要無形民俗文化財。

期日 1月11日(金)～15日(火)

場所 五十猛町大浦地区

【問】 五十猛まちづくりセンター

☎ 0854-87-0026



# ふるさとは今

## ねずみ淵と亀淵【久利町】

石見銀山のとなり、久利町には南北に銀山川が流れていますが、その支流である戸蔵川には「亀淵」が、亀谷川には「ねずみ淵」があります。どちらも自然の力でできた淵で、非常に大きな岩盤から成り立っています。

50歳代より上の方は子どもの頃、夏になると魚捕りや水遊びによく行かれたそうです。しかし、水害



ねずみ淵



亀淵

などの影響や子どもたちだけで行っては危ないからと、だんだんと忘れ去られていました。竹が生い茂り流木が流れ着いたりして、かつてのように気楽に行ける場所ではなくなっていました。せっかくの自然が作った雄大で美しいこの淵をなんとか復元しようと、このたび地元自治会の有志の皆さんやボランティアの皆さんの手により、竹の伐採、流木の撤去、遊歩道や手すり、休憩小屋などが整備されました。

秋には紅葉や写生、ウォーキング、春や夏は滝からの涼しい冷気を楽しんでみませんか？

どちらの淵も道路沿いにあり車や自転車で来られてもすぐに見ることができます。今後も地元有志の皆さんが復元、整備作業を続けられる予定です。

### ここへ行くには…

- 「ねずみ淵」 県道大田桜江線 亀谷口バス停より亀谷方面へ徒歩15分
  - 「亀淵」(休憩小屋があります) 県道大田桜江線 久屋小学校前バス停より広域農道を川合方面へ徒歩15分
- 詳しくは、久利まちづくりセンター ☎0854-82-5572



### 温泉津やきもの里

温泉津焼きの歴史に触れることのできる「やきもの里」には巨大な登り窯が保存修復され、今も春と秋の年2回、窯焚きが行われます。やきもの創作体験も可能 (☎0855-65-4139)

有名で、これらの工場で製造された焼物は、西は福岡、東は京阪神、北陸、北は北海道まで出荷されていました。町外から働きに来る人も多く、当時の温泉津町の大きな産業の一つであったと言えます。

温泉津焼の歴史は古く、始まりは宝永年間(1704年～1709年)と言われており、最初は瓦の製造から始まり、丸物製造に移りました。昭和30年代後半頃からプラスチック製品が普及し始めるとともに需要は減り始め、工場も閉鎖していきました。現在では河井寛次郎氏の流れを汲む椿窯、宥椿窯、森山窯の3窯が温泉津焼の伝統に民芸の風を吹き込んだ作品を作っています。

### 表紙 あの頃～はんど作りの風景(昭和30年代初頃・温泉津町)～

表紙の写真は、かつて温泉津町松山にあった製陶場でのはんど(みずがめ水瓶)作りの様子です。土をこねる人、形を作っていく人と、作業の様子がよくわかります。

水道がまだ普及していない当時、井戸から汲んだ水をためて、顔を洗ったり、炊事に使ったりするはんどはどの家庭にもありました。昭和初期がはんど、壺、すり鉢、こね鉢、片口などの丸物(日用雑器)製造の最盛期で、温泉津町には工場が11軒ありました。耐火性が高く、高温で焼かれるので硬くて割れにくいという特徴のある温泉津焼(石見焼)は全国的にも

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行／大田市役所総務部まちづくり推進課 TEL：0854-82-1600 FAX：0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail：o-matidukuri@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>

“おおだ”の定住サイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/>

どがどが 検索